

令和2年度 第3回学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立園芸高等学校
校長名	真鍋 政明

開催日時	令和2年2月18日(木)15:00~17:00
開催場所	大阪府立園芸高等学校 会議室
出席者(委員)	中桐貴生会長、小南修身委員、石田将人委員、西崎裕子委員、梶師登委員
出席者(学校)	真鍋校長、神教頭、橋詰首席、平尾首席、臼井首席、中野FF科長、脇谷BS科長 西村KR科長、金沢普通科長、松川教諭・宮腰教諭(記録)
傍聴者	0名
協議資料	次第 令和2年度 学校経営計画および学校評価 令和3年度 学校経営計画および学校評価 令和2年度各分掌等の取組目標・評価 令和2年度卒業生 進路状況 学校教育自己診断について 授業アンケートについて その他 ・令和2年度外部での発表等 ・卒業研究発表会について
備考	

議題等(次第順)	<ol style="list-style-type: none"> 令和2年度 学校経営計画および学校評価 令和3年度 学校経営計画および学校評価 令和2年度各分掌等の取組目標・評価 令和2年度卒業生 進路状況 学校教育自己診断について 授業アンケートについて その他
校長挨拶	<p>1. 令和2年度 学校経営計画および学校評価</p> <p>学校：令和2年度のもの3年度のものがある。目指す学校像をもとに中期的目標も入れている。 園芸ブランドの取り組みを行っている。幸せの食パンやソース、ジャムなど。 コロナの影響でなかなか販売の機会がなかった。 Google Classroomで休校中に生徒の体調の確認を行った。 農産物を箕面のJAで販売し学校のPRを行っている。 インスタグラムを活用してPRを行っている。進路では、国立大学4名、難関私立大学10名合格。</p> <p>2. 令和3年度 学校経営計画および学校評価</p> <p>学校：令和3年度の取組は1つ目確かな学力の育成、2つ目は安全安心な学校。 確かな学力の育成については基礎学力の調査についてははベネッセを活用している。 Google Classroomを今よりも活用していく。 新型コロナウイルスの影響で臨時休校になった時には活用して学力保証を行っていく。 委員：学校の塀がなくなって外から生徒の実習風景が見えるのが非常によい。 温室の撤去については外から見えるので早く撤去してほしい。教育庁への要望を。 園芸産のブランドについては毎年安定した生産をめざして。 単年のブランドはやめて、毎年安定した生産を行うことを目標に。 学校：コロナ対応で文科省から予算があり、温室の撤去を行って新しい温室を立てる予定。 園芸ブランドについては毎年安定して生産できることをめざす。 委員：箕面のJAで販売してのPRはすごくよい。さらに園芸の人气が上がっていく。 学校：JAから1千万円の予算をつけてくれたので、植物残渣を堆肥にする機械を導入する。 学校：令和2年度でできなかったことを3年度で改善する。 1番目は確かな学力の育成。知識、技能を確実に身に付けること。 2番目は生徒全員にタブレットを配布することを前提にオンライン授業の充実化を進めていく。 臨時休校になってもGoogle Classroomにより家庭学習を充実させる。 委員：遅刻についての主な原因は？理由を確認して改善に取り組んで欲しい。</p>

卒業率について、進路変更する人は3年間でどれくらいか。また、進路変更する理由は。

- 学校：遅刻の原因はさまざまでこれといったたしか原因はない。意欲と関係する。
毎年20名程度の進路変更がある。理由としては不本意入学や家庭的な理由が主な原因。
最近3年生になっての進路変更が目立っている。今までは3年生になっての進路変更はなかった。
- 委員：理由はともあれ本人が前向きに進路変更していくのであればよいと感じる。
- 学校：大部分は1年生での進路変更が多い。近年ミスマッチが目立っている。
中学校の先生にここに行くように勧められて自分の意志で園芸高校を受けていない原因もある。
- 委員：入学したからには卒業が絶対ではなくて、自分の向いている方に進んでいくことも大事。
無理して残すよりは変更させてあげる方がよい場合もある。
- 委員：タブレットの導入について。Wi-Fi環境は整っているのか。
- 学校：Wi-Fi環境は整えてきている。
- 委員：オンライン授業の導入により先生方の負担はどうか。残業などがふえているのでは？
- 学校：確かに負担はある。
- 委員：ご負担のない範囲でやっていたただければ。
- 委員：園芸を卒業後の進路先はたくさんある。国立大学の進学もある。
専門のことだけではなくその他にもいろいろな進路先があるのをPRして欲しい。

3. 令和2年度各分掌等の取組目標・評価

- 学校：コロナウイルスの状況の中でも授業の確保が一番大切。
課題研究の発表会も初めての取り組みでできた。現在は新カリキュラムについて調整中。
学校内での進級規定について検討中。
- 学校：進路部では1年生から進路決定を促すため、1年生から進路ガイダンスを取り入れるなどしている。
進学に向けて英語検定、数学検定、漢字検定を積極的に受けさせて合格に繋げている。
環境緑化科、バイオサイエンス科は専門職につく生徒が多い。
- 学校：農場部では、1学期は休校ということもあり、先生方での畑の管理を行った。
農業クラブの大会がなくなったが、来年度に向けて農業クラブの発表者を増やしていくのが目標。
教員が農業で仕掛けていく。興味のない生徒へのアプローチが必要。
- 委員：農場部主催の池田市文化会館での卒業研究発表会は今後も継続して欲しい。
発表会での生徒の成功体験は大切。

4. 令和2年度卒業生 進路状況

- 学校：本年度も就職希望者は全員就職が決まった。
- 委員：園芸高校は選択肢の多い学校。生徒の進みたい道に行けるのが良い。

5. 学校教育自己診断

- 学校：1年生の肯定率は70%、3年生の肯定率も70%、2年生の肯定率は60%と少し低かった。
保護者の肯定率が高かった。

6. 授業アンケートについて

- 学校：授業アンケートについて、1年生は目的意識が高かった。3年生も意欲が高くなってきている。
- 委員：3年生は目的意識が高くなるのは進学、就職に向けてだと思う。毎年このような感じか？
- 学校：毎年このような感じである。

7. その他

- 学校：今年度の学科ごとの外部の大会等への出場や地域連携等についてまとめた。
FF科については、花生けバトルのことについて報道ランナーで特集された。
環境緑化科ではいろいろなコンクールに出ている。バイオサイエンス科も同様。
卒業研究発表会については今年度から始めた。
- 委員：お世辞なしで価値のあるものであった。目的意識を持って発表できている。
また、質疑応答にもしっかりと答えられていた。

質問に対して返答するのも自ら内容を把握していないと答えられない。
大学生のような発表だった。この成功体験をこれからも継続して行って欲しい。
学校：来年度も課題研究発表会を継続していく
委員の皆様からいただいた助言を来年度の教育活動に活かしていく。
これからも園芸高校の良さををどんどん発信していきたい。

日時	令和3年6月
会場	大阪府立園芸高等学校 会議室